

藝大コレクション展 2022

春の名品探訪

天平の誘惑



2022年

4月2日^(土) ~ 5月8日^(日)

月曜休館 (ただし、5月2日は開館)

東京藝術大学大学美術館

[台東区・上野公園]

東

京藝術大学のコレクションは、前身である東京美術学校の設立から135年にわたり、作品や資料の収集につとめてきました。その内容は古美術から現在の学生制作品、標本などの資料まで多岐に及びます。東京藝術大学大学美術館では、この多彩なコレクションを広く公開する機会として、毎年藝大コレクション展を開催しています。

2022年の藝コレは

春の名品探訪

今春に開催する藝大コレクション展2022は、「春の名品探訪」です。約3万件の収蔵品の中から選りすぐりの名品を、展示室を一巡するように展示します。また今回は藝大と天平美術の繋がりに焦点を当て、古代から現代にいたるまでの天平にまつわる名品と貴重な資料を特集展示し、最新の研究成果もご紹介します。藝大ならではのさまざまな分野が混在したコレクションをお楽しみ下さい。

特集 天平の誘惑

8世紀の奈良の天平美術は、国際色豊かな唐護国家思想のもとに花開きました。そして後世した。《月光菩薩坐像》は天平の威風をたたえら当時の造像技法を観察することができる貴重な対象でありました。さらに今回の展示では、乾漆



《月光菩薩坐像》

の影響を受けながら鎮に多大な影響を及ぼしま

優品であると同時に、損傷部か資料として、開校以来長らく研究仏像や東大寺法華堂天蓋の残欠といっ

た天平彫刻の断片資料に光を当てた最新の研究成果もご紹介します。特集の白眉は《浄瑠璃寺吉祥天厨子絵》(重要文化財)です。本展では、厨子とその内側四方に描かれた合計7面すべての厨子壁画に加え、さらに吉祥天像(模刻)によって立体的な展示を試みます。鎌倉時代に制作されたこの名品にも、天平の面影を見ることができます。

近代に入ると古都・奈良に、古美術の調査・研究の眼が向けられます。奈良地方の古美術調査に同行した狩野芳崖が残したスケッチ《奈良官遊地取》や、彫金家として名高い清水南山が奈良での古美術研究の間に記録した《大和古寺仏像建築写生帖》など、作家たちが描き留めた天平美術をご覧いただけます。



柴田是真《千種之間天井綴織下図》「紅梅」部分



《浄瑠璃寺吉祥天厨子絵》「弁財天及び四眷属像」



狩野芳崖《悲母観音》



長原孝太郎《入道雲》



《綵観》左：荒木寛敏「錦輪」／右：白山松哉「錦袖」

◆みどころ

1. 浄瑠璃寺吉祥天厨子を大展開

《浄瑠璃寺吉祥天厨子絵》(重要文化財)は、もとは京都・浄瑠璃寺の木造吉祥天立像を収めた厨子の扉および背面板で、明治22年(1889)に東京美術学校の所蔵となりました。今回の展示では当初はめられていた厨子(模造)および吉祥天像(模刻)とあわせ、全7面を一挙公開します。目前に開かれた厨子のなかに足を踏み入れていくようなイメージをご覧いただける立体的な展示を試みます。

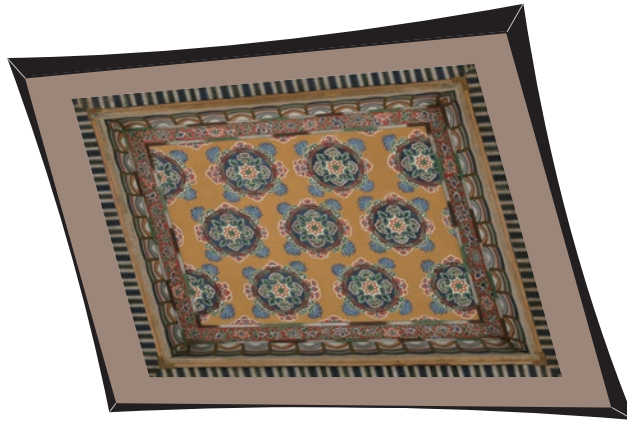
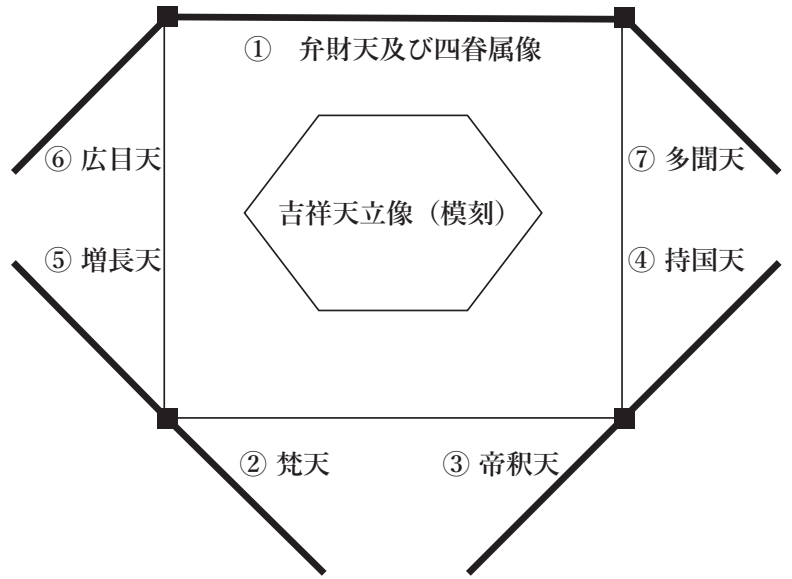
2. ぐるっと名品、一巡り

本学が所蔵する約3万件の作品や資料のなかから、古美術から現代美術に至る名品を展示空間をぐるりと取り囲むように陳列します。《小野雪見御幸絵巻》(重要文化財)や狩野常信《鳳凰図屏風》などの古美術からはじまり、藝コレでは約10年ぶりの出品となる長原孝太郎《入道雲》、初公開の白川一郎《不空羅索観音》といった近代洋画の逸品、そして狩野芳崖《悲母観音》(重要文化財)や橋本雅邦《白雲紅樹》(重要文化財)などの近代日本画の名品までご覧いただけます。

3. 近代の天平探求

フェノロサや岡倉天心らの奈良古社寺調査に同行した狩野芳崖は、31社寺で調査した所蔵品や建築物などをスケッチに描き留めました。本展に出品する《奈良官遊地取》はこのスケッチを後世、12巻の卷子装にしたものです。そこには当時の調査で再発見された天平美術が写し取られています。また芳崖の弟子たちの証言によれば、この時の古美術研究が芳崖の絶筆《悲母観音》の面貌表現につながったといえます。《奈良官遊地取》との同時展示により《悲母観音》の淵源に思いを馳せる旅へのご案内します。

◆浄瑠璃寺吉祥天厨子 展開図



藝大コレクション展 2022

春の名品探訪 天平の誘惑 広報用画像申請用紙

2022年4月2日（土）～5月8日（日） 東京藝術大学大学美術館

本展覧会の作品画像を広報素材としてご提供いたします。別紙返信用紙に必要事項をご記入の上、ご返信ください。画像をメールにてお送りいたします。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



◆画像使用に際してのご注意

※本展広報目的でのご使用に限ります（本展会期終了まで）。

※展覧会名、会期、会場名、クレジットは必ず掲載してください。

※作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません（応相談）。

※再放送・転載など2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

※基本情報、図版掲載の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で美術館広報担当までお送りいただきますようお願いいたします。

※掲載・放送後は必ず、掲載誌、同録テープを、美術館広報担当まで一部お送り願います。

東京藝術大学大学美術館

「藝大コレクション展 2022」広報担当者行

Fax : 03-5685-7805 / E-Mail : am_kikaku@ml.geidai.ac.jp

*ご希望の画像に印をつけ、Fax あるいはメールにてご連絡ください。

*画像のデジタルデータをメールにてお送りします。画像を掲載の場合には、下記クレジット表記、および別紙注意事項を順守くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。

貴社名		媒体名	
ご担当者名		発行予定日	
電話		発行部数	
Fax		定価	
Email		掲載予定コーナー名等	

画像の掲載サイズ (例: 5cm 四方)

貸出画像・キャプション ※ご希望のデータの番号に○をつけてください。

	①《月光菩薩坐像》奈良時代 東京藝術大学蔵
	②《浄瑠璃寺吉祥天厨子絵》「弁財天及び四眷属像」建暦2年(1212)頃 重要文化財 東京藝術大学蔵
	③狩野芳崖《悲母観音》明治21年(1888) 重要文化財 東京藝術大学蔵
	④東京美術学校監造《綵観》荒木寛畝「錦輪」明治38年(1905) 東京藝術大学蔵
	⑤柴田是真《千種之間天井綴織下図》「紅梅」部分 明治20年(1887) 東京藝術大学蔵
	⑥長原孝太郎《入道雲》明治42年(1909) 東京藝術大学蔵
	⑦ 藪内佐斗司《鹿坊 面》平成22年(2010) 東京藝術大学蔵

◆報道関係の方から本展覧会に関するお問合せ先

広報担当 加藤 Tel: 050-5525-2438

E-Mail : am_kikaku@ml.geidai.ac.jp

Fax : 03-5685-7805

学芸担当 古田 村上 樋口



數内佐斗司《鹿坊 面》

◆開催情報

藝大コレクション展 2022 春の名品探訪 天平の誘惑

会期：2022年4月2日（土）～5月8日（日）

休館日：月曜日（ただし、5月2日は開館）

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

※本展は事前予約制ではありませんが、今後の状況により変更及び入場制限を実施する可能性があります。

会場：東京藝術大学大学美術館 本館 展示室1

（〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8）

交通案内：JR上野駅（公園口）、東京メトロ千代田線根津駅（1番出口）より徒歩10分

京成上野駅（正面口）、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅（7番出口）より徒歩15分

当館に駐車場はございません。

観覧料：一般440（330）円、大学生：110（60）円

※高校生以下及び18歳未満は無料

※（ ）は20名以上の団体料金

※団体鑑賞者20名につき1名の引率者は無料

※障がい者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料

主催：東京藝術大学

お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

ホームページ：<https://museum.geidai.ac.jp/>